

検察官（本部事件担当検事）



【職歴（キャリアステップ）】

H17. 10 検事任官（東京地方検察庁）

・

H27. 4 東京地方検察庁検事

H29. 4 鳥取地方検察庁検事

H31. 4 千葉地方検察庁検事

R 3. 4 高松地方検察庁検事

R 5. 4 横浜地方検察庁検事

【志望動機】

司法修習が始まった頃は、修習生の約8割が弁護士になるんだから自分も弁護士になるんだろうなあと考えてました。

でも、昔から刑事ドラマは好きでしたし、たまに火サス出てくる検事ってカッコイイなとも思ってたので、憧れはありました。実際に修習中に検事の仕事っぷりを見てみると、「悪を許さない」的なオーラが出ていて、やっぱりカッコイイんです。

それに、検事は事件で分からないことがあれば自ら捜査して明らかにできるので、ここが弁護士や裁判官と大きく違っていて、より真実に近づけるんじゃないか、おもしろいんじゃないかとも思いました。

そんなわけで、おもしろそうでカッコイイなあっていう勝手な印象と、「正直者が馬鹿を見る世の中にはしたくない」という素朴（単純？）な正義感から、検事を志望しました。

【業務内容】

私が所属する刑事部では、主に、警察が捜査して検察庁に送ってきた事件について、更に捜査して、警察が検挙した被疑者が本当に犯人なのか、犯人はどんなことをしたのかなどを明らかにして、被疑者を起訴するかどうかを判断するという仕事をしています。検察官も、自分で被疑者や参考人の取調べをしますし、現場にも行ったり証拠品を調べたりもします。

それに、私は、ドラマやニュースでよく見る「捜査本部」が設置されるような殺人などの凶悪重大事件を担当することもあります。このような事件では初動捜査がとても重要です。事件発生直後、証拠がなくなってしまう前に必要な証拠を素早く収集できるか否か、これで後の捜査の進展が大きく変わってきます。ですから、凶悪重大事件が発生すると、すぐに現場を見に行ったり被害者のご遺体を確認したりしますし、捜査本部に入って次々と上がってくる情報を整理しながら、県警捜査一課の刑事と捜査方針を話し合います。捜査一課の刑事たちはよく訓練されて士気も

高いので、一緒に捜査をすると楽しいですし、勉強になります。

【仕事のやりがい・感想等】

捜査が始まったばかりのときは、事件のほんの一部しか分かっていません。例えるなら、黒いシートで隠された大きな絵を、シートに開けられたいくつかの小さな穴から見ている感じです。でも、証拠を集め、その証拠から推測して仮説を立て、また証拠を集めて仮説を検証して・・・ってことを何度も何度も繰り返すうちに、分からなかったことが少しずつ分かってくる。霧が晴れて視界が開けていくように。先ほどのシートの穴が大きくなってつながって行って、どんな絵か分かるようになっていく。そして捜査が終わる頃には、事件の全体像がはっきりしてくる。絵の全体像が、しかも立体的に見えてくるような感じ。これがとても面白いんです。

あと、何のために仕事してるかという問いに対して（問われたことがあるわけじゃないですけど）、「正義」と胸を張って堂々と答えられる仕事って、やっぱりいいなあと思います。何というか、真ん中に軸みたいなのがあってブレない感じがいいですね。

検事の仕事は、他人の人生を左右するととても重いものですから、当然大変です。でも、やめたいと思ったことはありません。むしろ「やりたいことをやらせてもらえてるんだからラッキー」ぐらいに思ってます。こんな考えの検事ってかなり多いと思いますよ。

★学生向けメッセージ★

おもしろくてカッコイイ仕事なのでオススメです。